

サンコールがエンジン自動車関連部品を中心とした事業ポートフォリオ(構成)の改革を進めている。2024年3月期連結決算は最終赤字となったが、6月末に就任した奈良正社長は、電気自動車(EV)やデータセンター関連に注力し、巻き返しを図る方針を示した。(聞き手・田中俊太郎、撮影・奥村清人)

「厳しい業績の中で経営トップのバトンを引き継いだ。」
「プレッシャーを感じている。24年3月期は、ハードディスクドライブ(HDD)用サスペンションと自動車部品で大きな減損があった。サスペンションはデータセンターの設備投資需要が急速に落ち込むなど市場の動向が影響したが、何か手を打てなかったのかという反省はある」
「既存のエンジン関連

サンコール社長

奈良 正氏



なら・ただし 東北大院修了。1985年、トヨタ自動車入社。2017年、サンコール執行役員に就任し、19年から取締役。専務執行役員、副社長執行役員を経て、24年6月から現職。静岡県出身。63歳。

EV・AIに積極投資

事業の見直しは。

はない」

「エンジンで動く乗用車は25年をピークに徐々に減っていくのではないかと見ている。ただ、EV関連と電子情報分野に用途が広がるだろう」

強化する事業は。

「EV関連と電子情報は、配電部品のバスバーで大型案件を受注でき、今期は生成AI(人工知能)の普及でデータセンターの投資が活況を呈している。また、特に光コネクタは、需要に追いつかない状態だ。今後は5G(第5世代)や6Gの移動通信シ

が難しくなる。EVだけでなく、風力発電所や充電器など、さまざまな分野に用途が広がるだろう」

「電子情報通信関連では、今期は生成AI(人工知能)の普及でデータセンターの投資が活況を呈している。また、特に光コネクタは、需要に追いつかない状態だ。今後は5G(第5世代)や6Gの移動通信シ

システムへの展開も予想され、力を入れていく」
「ノートなど一般消費者向け商品の開発も始めた。」

新社長に
聞く
interview with new president